

令和5年第1回安城市議会定例会請願文書表

令和5年3月1日

番 号	請 願 第 1 号	受理年月日	令和5年2月17日
件 名	「高齢者の補聴器購入助成制度の制定」に関する請願		
提 出 者	全日本年金者組合愛知県安城支部 稲 生 光 良		
紹 介 議 員	石 川 翼 森 下 祥 子		
付 託 委 員 会	健康福祉常任委員会		
要 旨	<p>請願の趣旨</p> <p>貴職が市政の向上に日々務めておられることに敬意と謝意を表します。</p> <p>さて、高齢者の補聴器装用に利点の多いことを国立病院機構東京医療センターに設置されている感覚器センターで聴覚障害研究室長を務める神崎晶（かんざきしょう）医師の研究成果から4点を紹介して、本市における補聴器購入時の助成制度制定の請願趣旨の裏付けとします。</p> <p>ア 認知機能の改善と脳機能の回復を中心とした調査のため、軽度から中程度の老人性難聴症状がある65歳以上の19人を対象に、装用前、装用3カ月、装用6カ月後に脳機能検査をしたところ、言葉の聞き取りは49%が改善し、聴力の維持は27%ができた。</p> <p>イ 65歳以上の34人に補聴器の装用をした結果、認知症が改善する効果が確認できた。</p> <p>ウ 脳内では聴覚をつかさどる領域と視覚に関係する領域に機能的な関係が見られ、聴覚が衰えると視覚が情報収集を代行する。MRI技術を利用したfMRI（機能的磁気共鳴画像法）という研究手法により、その様子を詳しく調べたところ、補聴器を装用することで視神経による代行の必要性が低くなる可能性が観察できた。</p> <p>エ 18年以上にわたって2年おきに、50歳以上の2020人を対象として聴力と問診を行ったところ、難聴が軽度であればあるほど補聴器の装用で認知機能の低下を予防できることが観察できた。</p> <p>以上のように、補聴器を装用することで日常会話の聞き取りが向上することはもちろん、軽度のうちに対応するほど認知症の進行を抑える効果があり、視覚神経の負担も軽減する効果が期待できるということになります。</p> <p>補聴器は手軽に購入できるほど安価なものではありません。高齢者が健康な生活を維持できるよう、補聴器購入時の助成制度を制定するようお願いいたします。</p> <p>請願事項</p> <p>安城市は高齢者に対する補聴器購入時の助成制度を制定してください。</p>		